

目的 私達は服装から様々なイメージ感情を抱き、また表現したいイメージの服を着装する。そのイメージは服装の形態、色彩といったデザイン要素によって大きく異なる。そこで服装のイメージとデザインとの関連を明らかにし、被服設計やデザイン教育に役立てたいと考える。今回は若い女性向けの服装雑誌より選んだ写真サンプルから服装のイメージを測定して、イメージを構成している主要な因子を抽出し、それらの因子に影響しているデザイン要素について検討した。

方法 ①服装のイメージを表現すると思われる形容詞を20対選んだ。②服装雑誌から304のサンプルを選んでスライドにし、1サンプルにつき女子学生約80名にそれらから受けるイメージをSD尺度法により評価させた。③その評定平均値をもとに因子分析を行い主要な因子を抽出した。④抽出された服装イメージの主要因子の因子得点を外的基準に、衣服を構成しているデザイン要素を説明変数にして数量化I類による分析を行った。

結果 服装に対するイメージの主要な因子は、①カジュアル②目立ち③洗練性④明るさ⑤親しみの5因子であり、累積寄与率は94.5%であった。これらのイメージに大きく寄与しているデザイン要素は、カジュアル因子については下衣の形、上衣のデザインディテール、目立ち因子については下衣の形、上衣の色相、トーン、洗練性因子については上衣の色相、下衣の形、明るさ因子では上衣、下衣の色相、上衣のトーン、親しみ因子では下衣の色相であった。